

活用案のとりまとめ

＜後利用テーマ；円海山の自然に抱かれて、多世代が生き生きと暮らすまちを支える＞

「上郷東地区まちづくり構想」  
跡地利活用の視点

＜基本的な視点＞

1. 上郷東地区のまちづくりに貢献する。
2. 低層の戸建住宅を中心とした街並み・景観との調和に配慮する。
3. 地域の軸となる基盤整備と一体的に検討する。

＜考慮する視点＞

1. 地区のまちづくりや地域交流、文化交流の中心的役割を担う場として構想する。
2. 地区内の福祉サービスや健康増進（介護予防含む）の中心的な役割を果たす利用を構想する。
3. 魅力資源である自然を楽しむための入口や学習・体験の場としての活用や、農的活用を構想する。

柱1；元気にいつまでも安心して地域で暮らす

これからの10年間、後期高齢者等の急増が予想され、在宅での生活支援、介護予防や入所施設整備などを強化する。

総合案内・相談所

- ・地域ケアプラザ等のランチ機能設置
- ・生活支援サービスの案内
- ・移動支援団体との連携

医療・要介護高齢者等のケア支援

- ・病児のための子ども医療センター
- ・入所施設～住宅型有料老人ホーム 等

健康増進・介護予防

- ・通所施設～運動や歌の歌えるデイサービス
- ・運動の出来る場

障害者の社会参加と地域貢献

- ・障害者通所事業所（授産施設）

↑ ↓ 一体的な連携

柱2；若い世代の定住支援を強化する

20～30年先の未来に向けて、若者や子育て層の移住や定住促進のため、若い世代の生活支援機能を強化する。

子育て支援機能を導入する

- ～さかえ次世代交流ステーションの地域版～
- ・保育事業
- ・親と子のつどいの広場
- ・青少年の居場所づくり

居住しながら働ける魅力的な場づくり

- ・新しい職域、活動の場づくり……テレワークオフィス、シェアオフィス（ITを活用したスモールオフィス群）

エコ・ユニバーサルデザイン

- ・車イスで敷地内を回遊できるエレベーター設置、段差解消
- ・適切な手すりの設置
- ・緑豊かなうらおいのある空間
- ・太陽光発電



＜地域における管理運営の考え方＞

- ・現在、コミュニティハウス、体育館、格技場、グラウンドを暫定利用している。（コミハ以外は地域による自主管理運営）
- ・柱3については、市の施設として引き続き地域主体の管理を基本としたい。将来的には、地域組織による法人化（NPO法人、一般社団法人等）をめざす。

柱3；コミュニティ活動の拠点を設ける

いつまでも健康で元気に暮らす基盤整備のため、コミュニティ活動の拠点を一層拡充する。

独自のコミュニティハウスを再整備

- ・地域開放多世代交流スペース
- ・青空市場、サロン、カフェ
- ・交流レストラン（食堂）
- ・多目的室（イベント・展示室）
- ・音楽室、会議室、事務室、貸教室
- ・ちびっこルーム など

総合スポーツセンターとしての利活用

- ・体育館、格技場（武道・伝統芸能）
- ・校庭（ちびっこ広場、テニスコートなど）
- ※大駐車場（来場者用）の意見もある。
- ・プール

地域防災拠点として継続

- ・福祉避難所、物流拠点、医療拠点などの機能を持つ

↑ ↓ 一体的な連携

柱4；環境を活かした特徴的な魅力を創る

円海山の広域緑地の出入口に位置する特性を活かし、自然を取り入れた魅力づくりをはかる。

周辺の緑環境の魅力で、来街者を増やす

- ・周辺の市民の森、ハイキングコース、散策コースへのインフォメーション機能の整備（森の家等との連携による運営）
- ・庄戸トンネル上部も活用する（地域内の緑を増やす、桜並木（桜=栄区の木）、富士山の眺望を名所にする、遊歩道+カフェなど）

地域の特性を活かした「事業」の創出

- ・健康野菜の栽培（教室を利用した施設栽培、校庭を利用した野外栽培）や野菜加工・販売（近隣農家の野菜等も一緒に販売）。収益を活用し、ミニバス運行や栽培技術開発等の財源に充当。
- ・間伐材を活かした事業化支援（木工芸・木工おもちゃなどのクラフト事業等）